



経済情報コーナー

アジアへ発信「五所川原立佞武多」 ソウルランタンフェスティバル参加による 五所川原市観光プロモーション事業の実施

青森県五所川原市経済部商工観光課観光物産係長 吉田 純也

「^{ごしょがわらたちねぶた}五所川原立佞武多」が初めて韓国の地へ降り立ったのは、2010年度にソウルランタンフェスティバルに招待されたのが初めてで、その翌年にも参加し、ソウル市民の好評を博したところです。これまでは「五所川原立佞武多」をメインにPRしてきましたが、五所川原市の良さを十分にPRできていなかったということもあり、今回、立佞武多の展示に加え、観光プロモーションを展開し、外国人観光客の来訪の促進と国際観光の振興を図ることを目的として事業を実施しました。

「五所川原立佞武多」いざ、 ソウルランタンフェスティバルへ！ 清溪川で五所川原をPR

期間：2012年11月2日～18日

(ランタンフェスティバルの開催期間)

場所：ソウル市清溪川

ソウルランタンフェスティバルは、ソウル市中心を流れる清溪川において行われるソウル市主催の灯籠祭りです。2012年11月2日に開幕したソウ

ルランタンフェスティバルで展示された数多くの灯籠の中でも「五所川原立佞武多」はほかに比べ、色使い、立体感などの完成度が高く、ひときわ目立っていました。多くの来場者から称賛をいただき、同時に「五所川原」「立佞武多」というワードで広く情報の発信を行うことができました。

なお、ソウルランタンフェスティバルは2012年11月2日から18日までの17日間開催され、257万人の来場があったと発表されています。

期間中は、清溪川岸のブースを使い観光PRも実施しました。立佞武多の囃子を演奏して、立ち止まるお客さまをおもてなしし、観光パンフレットや特産品の赤〜いりんご関連商品などを配布しました。ブース内では引退した立佞武多の紙を再利用したうちわづくりの体験を実施し、こちらはお子さま連れの家族に大変好評でした。

期間中、現地の大学生ボランティアに通訳で協力していただき、ソウル市民との交流を深めながら「五所川原」を熱心にアピールできたため、ソウル市民へ五所川原の良さを強く印象付けられたと実感いたしました。



ランタンフェスティバル点灯式



清溪川に浮かぶ立佞武多「剛力項羽」



赤〜いりんごジュースの試飲会場

■ 韓国旅行エージェントへの ■ 観光プロモーション

期日：2012年11月5日

場所：ソウル市 ロッテホテルソウル

今回、ソウルランタンフェスティバルの期間中、韓国の地で初めて観光プロモーションを実施しました。「体験する」「交流する」「深く学ぶ」そして「ショッピング」を旅のテーマに、「出会い」「感動」「発見」といった五感に訴えることを旅のキーワードとして、主要観光施設などの五所川原市の魅力を、韓国旅行エージェントに強くアピールしました。



観光プロモーションを実施

昼食をいただきながらのスタイルで実施し、当市特産の十三湖産ヤマトシジミのみそ汁や赤～いりんごジュースを提供しました。非常に好評を得たと同時に品質の良さをアピールできたものと感じられました。

また、アトラクションとして立佞武多制作者がその場でねぶたの面（顔）に墨入れをするパフォーマンスも実施しました。完成したねぶたの面は抽選会を行いプレゼントとして活用したところ、大変好評でした。



面の墨入れパフォーマンス

外国での観光プロモーションは初めてでしたが、今後の旅行商品造成に向けて有意義なものとなりました。

■ 旅行エージェントへの訪問

期日：2012年11月6日

場所：ハナツアー（ソウル市鐘路区）

11月5日の観光プロモーションのねぶたの面プレゼントに当選された韓国旅行エージェントへのフォローアップとして、翌日に会社を訪問し、面に色をつけてお届けしました。

さっそくの訪問に驚かれていましたが、今後の旅行商品造成に向けた情報交換もできたことから、非常に有意義なものとなりました。



旅行エージェントを訪問し、ねぶた面をプレゼント

■ 今後の展望

「ソウルランタンフェスティバル」に3か年参加し、2012年度は期間中、初めて韓国旅行エージェントを招待し、五所川原市観光プロモーション事業を展開しましたが、これで終わりではありません。ようやくスタートラインに立てたのです。

今回の事業を含め過去3年間行ってきたことに対する事業の効果を検証するため、韓国旅行エージェントやマスコミなどを対象としたFAMツアー（業界関係者を対象とした現地訪問ツアー）を検討し、実際に「五所川原市」を体感していただき、韓国に対する本市ならではの情報発信と、旅行商品の造成を働きかけていかなければなりません。

今回実施したこれら一連の観光プロモーションが、当市の認知度向上とあわせ、青森県の観光客数の回復への足掛かりとなることを期待いたします。